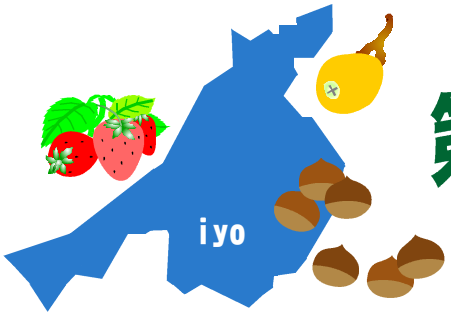


伊予市第二次総合計画

第２回市民ワークショップ news!

2

発行：平成27年５月　　伊予市未来づくり戦略室［伊予市米湊820番地　089-982-1111］

第2回市民ワークショップを開催しました！

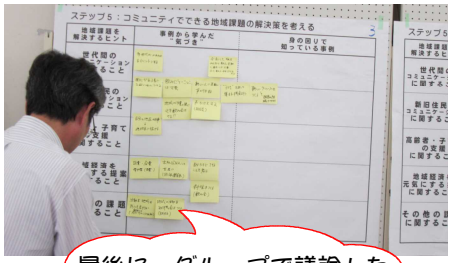
５月10日(日)の午後、伊予市第２次総合計画第２回市民ワークショップを開催しました。今回は『自律する地域を目指して～地域で解決できること、できないこと～』をテーマに、地域自治をはじめ高齢者支援、子育てなど様々な活動に携わっていらっしゃる方、29名にお集まりいただき、議論していただきました。

はじめに、自己紹介カード『わたしの暮らすコミュニティ自慢』を書き、グループ内で紹介し合いました(p2～)。次に、伊予市の中から特徴のある３つの地域から、それぞれの地域課題に対する地域ならではの取り組みについてお聞きしました(p4～)。職員チームから、地域のつながりについての問題提起をした後(p6)、グループごとに３つの事例紹介をヒントにしながら、「事例に関する”気づき”」と、すでに取り組まれている「身のまわりの事例」を出し合いました(p7～)。話し合いの結果を全体の場で発表し、感想カードを書いていただいて(p14～)、第２回のワークショップを終了しました。

今回紹介した３つの事例の中で、「住民自治されだに」と「まちづくり学校双海人」は、地域経済への貢献という視点を明確に持ち、それぞれの活動に取り組んでいました。「松本軍団」は、農村集落だった頃の共同作業のつながりを、新しい絆として再生している興味深い活動です。第１回で参加してくれた医療生活協同組合の活動なども、まちなかの課題を協同組合という社会的事業体として解決しようとしている事例として理解できます。次回の最終回は、人口減少の現実に負けない、地域力を育てる政策提言を具体的に考えます。多くの方のご参加をお待ちしています。

～プログラム～

ステップ１：はじめに
ステップ２：自己紹介『わたしの暮らすコミュニティ自慢』
ステップ３：３つの地区の事例に学ぶ『地域でできること、できないこと』
ステップ４：地域の課題解決力の現状について問題提起します
ステップ５：地域の事例をとおして伊予市のコミュニティの課題解決を考える
ステップ６：グループの話し合いの結果を全体の場で発表してもらいます
ステップ７：まとめ



最後に、グループで議論した結果を全体の場で発表していただきました。

自己紹介「わたしの暮らすコミュニティ自慢」

みなさんの暮らすコミュニティの自慢を、グループ内でしていただきました。

人とのつながりが強い

○近所付き合いがとても密な地域です。お互いが協力して助け合わないと暮らしていけない環境ということもありますが、お互いをよく知り、助け合う人情豊かなコミュニティです。

○同世代の子どもが多い。昔からの知り合いが多い。

○小学校、集会所、子ども～お年寄りが集まってのアットホームなイベント。若者が積極的に活動に参加してくれる。芸達者が多い→伊予彩おどりで受賞。絵や字、料理等の達人が多い。お年寄りがすごく元気。人情味がある、活動力のある人が多い。

○下三谷のＪＲ横田駅近くに住んでいます。昔からずっと定住している人が多い場所なので、近所の人とのつながりが強いところです。この前、小３の子が居るのですが、私がお買い物に出て少し遅くなり、帰ると居ないので心配して自転車で探し回りましたが、となりのおばちゃん家で面倒を見てくれていました。そして「いつでもおばちゃん家に来てくれていいのよ。来てくれてありがとう」と云ってもらえました。助かりました。

○湊町。子どもが少なくなってきている。子どもが小さい頃、愛護班活動、ＰＴＡ活動を通じて親同士で知り合った関係のつながりに始まり、その活動以外でも仲良く食事したりするようになったことが思い出されます。子どもが今は消防団活動、清掃活動。

○愛護班活動や体育会活動などにより、地域の人と顔なじみになる機会がある。田舎である分、あいさつなどが自然にできている（大人も子どもも）。

○近所の人が「仕事はどう？」など気軽に声をかけてくれること。また地元に残っている同級生が多く、立ち止まって気軽に会話などができ、人の温かさを感じることができるところ。

○組内で10人組を作って冠婚葬祭出席。年に１～２回、夫婦で温泉へ入って食事をし、楽しんでいる。

○私の暮らす上灘（双海町）地域では、小学生からサッカーチームが存在しており、70才くらいまで、世代別でチームを構成している。世代別でチームが存在しているが、一緒に練習したり、地元イベントにおけるビーチサッカー等の運営を世代を越えて行っており、サッカーを通じてコミュニケーションをとることができている。私にも後輩が出来てきたので、このようなつながりが続いていくよう、努力していきたいと考えています。

○道ですれ違ったひととあいさつが普通にかわせること。どこかに旅行に行ったら、家族の分だけでなく、近所の人にもおすそわけするところ。万能ねぎをはじめとして、多くの野菜、果物などをつくっていて、それが手軽に買える直売所がたくさんあるところ。桜の名所や藤の名所、コスモスやしょうぶなど、四季折々の風景の代表地があるとともに、季節を感じることのできる場所が多くあるところ。（福岡県朝倉市）

地域内の活動が盛んである

○上吾川（松本）での集まりが多い。１年を通して年齢を問わず、いろいろな行事をしています。どろんこ祭り、夏祭り、伊予彩祭り参加、もちつき、駅伝、レクバレ。近所でも会えば長話。バーベキュー(家)で仲良し。親の姿を子が見る、自然に人との交流を学べる。

○「松本軍団」では月１回の定例会（飲み会）で話し合って、仲を深めていきます。行事も多くて、夏は「いよさいまつり」の踊りに参加して、昨年は「クリベえ賞」をいただきました。年末には「もちつき大会」があり、３世代で楽しめるイベントとなっています。

○引っ越してきて８年ですが、松本地区での活動が好きで、今では率先して子ども達の住みやすい（顔を憶えてあげる)、面白い事を日々考え、皆で月１回、定例会を開き楽しんでいます。

○奇跡的に同世代の、同じ家庭環境を持つ者が集まり、月一で定例会という呑みニュケーションを実施しています。お店へ行くよりはるかに安く楽しい活動が出来ています。伊予市上吾川（松本）に住んでいます。

○私の暮らす上吾川地区は、農業を中心とした地区ですが、若者のスポーツの取組、祭りなども積極的に参加する様に思います。農業地域ということで水路の掃除、池の草刈り等、地域美化活動も積極的な取組を行っております。

○私は伊予市上吾川に住んでおります。上吾川松本に家を建てて８年になりますが、松本地区では毎月第１土曜日に”松本体育会”という名目で飲んでいます。また地域のソフトボール、バレー、駅伝などにも積極的に参加し、コミュニケーションを図っています。また夏祭り、もちつき大会など、三世代の交流も盛んに行っています。

○南山崎はビワが有名ですが、１年に１回、地域でのお祭りのごとく賑わいます。いろんな組織が集まって、お手伝いし楽しんでいます。

○私の住んでいる地域は双海町翠地区。地域のシンボル、翠小学校があり、学校を中心にほたる祭りやグリーンツーリズムなどが行われているが、ほとんどの方が翠小ＰＴＡを卒業した方、ＯＢで、ＰＴＡでのつながりから様々な活動が生まれている。

○住民自治されだにの活動の活性化の一環として、1)環境整備活動として、地域の主要道路沿線周辺の草刈り、ガードレールの清掃、河川のヨシ刈り等、部会メンバーによる整備。2)活性化部会の活動において、イエローキッチンと名付けたおばちゃんグループによる地域の特産品を使って、イベントを主体とした料理づくりでコミュニケーションを図る。

新住民としての地域への参加

○４年前に伊予市に引っ越してきました。知り合いもほとんどいませんでしたが、同じアパートで同世代のお子さんのいるお母さんたちにすぐに話しかけていただき、いろんなことを教えてもらえました。とても小さいコミュニティですが…。

○私は住所がたびたび変わり、なかなか皆様の事がわかりませんが、この地域に来て老人会に入る様すすめて戴いて入り、皆様との交流が出来、楽しく生活致しておりますが、若い人達と交流があったらいいなと思います。近所にはアパートがあり、人の移動が多く、コミュニケーションがとりにくい。

○伊予市下吾川（新川）在住です。生まれが伊予市双海町で引っ越して５年です。アパート暮らしなので地域コミュニティにはなかなか参加しづらい感がありましたが、昨年から消防団に加入。少しずつ地域活動に参加したいと思います。消防団に入って思ったことは、団員が若いということです。

暮らしやすい

○徒歩５分程度の圏内で生活ができる。スーパーや飲食店、病院、駅等が集約している。

○私は地区老人クラブをお世話させていただいています。私の住んでいる地域は530世帯程の、40年前に団地ができて現在に至っています。住民はすでに高齢になっており、一人暮らしの方も増えており空き家も方々。団地は鳥木団地と云って環境は良く、ＪＲ駅、お店、病院が近くで助かっている。住民は素晴らしい知恵や技術を持っている方もいます。最近は子どもが少ないが、祭りなどに団地を上げて協力、盛り上げています。将来に期待したい。

○郡中いっぷく亭…ご高齢の方の交流サロン。郡中まち元気サロン来良夢…コミュニティづくりの場。

○松山市桑原に６年間住んでいます。おすそわけや地域の人との交流がある。魅力的な地元の店がたくさんある。お祭りや文化祭など多くのイベントがある。中心部へのアクセスは良い、しかも静かで住みやすい。

○私は伊予市上吾川地区に住んでいます。一度、就職で東京へ行った以外はずっと伊予市に住んでいます（約40年）。少し高台にある地域ですので、意外と見晴らしが良く、家から伊予灘が一望でき、夜はとても静かでとても住みやすいと思っています。

○春になると道路沿いの電柱に花が飾られる（誰がやっているかは不明）。地元の人が集まる飲み屋さんが複数ある。高齢者、一人暮らしと学生が利用するスーパーがある。（松山市高砂町）

○私は大学に通っているため、松山市に住んでいます。松山市は多種多様な特徴を持った地域だと思います。大学周辺は学生が多く、若者によって活気のある町になっています。また市による様々な政策（国体、自転車、交通）が行われ、日々、住民が住みやすい都市に変化していると思います。観光により外部との交流も多くあるのも特徴の一つです。

３つの地区の事例に学ぶ『地域でできること、できないこと』

伊予市の中から特徴のある３つの地域から、それぞれの地域課題に対する地域の取り組みについてお聞きしました。

佐礼谷地区の住民自治組織「住民自治されだに」（平成20年設立）

「笑顔と情熱、新しい新しい風吹く里されだに」というキャッチフレーズの下、福祉、環境、地域活性化、公民館という４つの部会を中心に、現在活動を進めている。

●現状

・人口626人、283世帯。年平均20名ずつ人口が減っている。

・高齢化率は50％を超え、佐礼谷小学校の全校児童数は13名。超が付く過疎地、少子高齢で、深刻な事態である。

●遊休農地の取組

・個人で管理が難しくなった土地を借り、地域で管理をしている。

・１haほどの耕作放棄地に菜の花を植え、「されだに黄色い丘」として整備。愛媛新聞に掲載されたこともあり、１週間に600～800人ぐらいの観光客の方が見えた。

・他にも人口の山菜畑や、放置竹林の竹チップを使った堆肥の研究・カブトムシの飼育・抑草の研究などをしている。

・横の梅林を整備し、今では花も実もなるようになっている。

・簡単に食事や休憩ができる秘密基地を作るため、今は資金集めを検討している。

・地域外の方や愛媛大学農学部の学生にも来てもらい、黄色い花を植える開墾モニターツアーも実施している。

・先月は野外コンサートを開き、開放的な空間で楽しんでもらった。

・活動に携わっている方がいろいろと考えていて、行くたびにこの丘が進化を遂げている。

●５つのＫ＝共感・感謝・感動・経済・継続

・草を刈るだけなら作業でしかないが、それを感謝、感動、経済を産み出すような仕事にしていかなければ継続は難しい。

・草刈りをゲーム化し、雑草怪獣「オドロガンス」vs「刈武会」として、楽しんでいる。そのキャラクターでラインスタンプを作り、いずれはその利益で草刈りの報酬が払えるようになったら良いと考えている。

●ふるさとのための活動＝住民自治

・根幹は自分達が、「自分の地域が好きや」ということ。そういう人を増やしていくことが過疎、少子高齢化対策の糸口になる。

・住民自治を進めることで、若者が地域活動に携わってくれるようになった。地域に参加できる居場所や出番づくりをしていきたい。

●地方再生の前に地域再生

・遊休農地や放置竹林、空き家など、負の遺産となりつつあるものを地域資源として再活用し、蘇らせ、地域に元気を取り戻すことが必要ではないか。

・再生ボタンをみんなが持っている。ボタンを押すとドラマが始まり、行動力につながる。住民も行政も企業も大学も一緒になってそのドラマを作り上げていく、一人一人が主人公となる、感動的なドラマをこれからも作り上げていきたい。

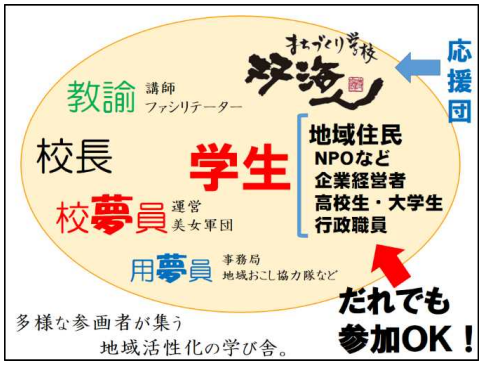
・過疎、少子高齢化問題は地域や団体で解決出来ることではないので、市や国全体の課題として考えていかないといけないと思う。

「住民自治されだに」　北岡さん

まちづくり学校「双海人」（平成24年４月設立）

双海町に住む方、双海町外の方々、どなたでも入れる住民団体
新しいビジネスを学びながら考えて実践していく場

●まちづくり学校「双海人」



●運営のキーワード

①多様性

・年齢階層、職域、女性、若者、よそもの、学識者等

②対等・平等

・組織、役職、立場等に関係なく

③オープンわかりやすく、

・誰でも参加、他人任せにしない

④小さな社会実験から

・まずはやってみる、小さくはじめる

●校訓

ふ るさとを愛し
た のしく学び
み んなが幸せになる

まちづくり学校「双海人」
本多さん

●双海人の活動

①定例会（月に1回）

②クラブ活動

◆加工品開発クラブ

・団子を作り、イベントに出店

◆カフェ事業クラブ

・道の駅で不定期にカフェを実施

◆福祉事業クラブ

・コミュニティサロンの実施

③移住交流プロジェクト「若返り玉手箱」

・田舎子育てをしたい人を見つけ、希望する方の窓口となり、移住支援をする。

・空き家を調査して希望者に紹介

・ＳＮＳなどを使った情報の発信

・東京などの都市部で行われる移住フェアに参加して町のＰＲや移住相談を受け付け、実際に来訪された方の案内を実施

・一昨年は、実際に田舎の子育てを体感するツアーを行い５組、16名を受け入れた。

・移住支援をし４人家族１組、６人家族１組が移住。地区の翠小学校は全校児童数が、支援をして２年間で６人の子どもが増えた。成果は大きいと思っている。

④市民映画の制作

・伊予市政10周年記念事業として、市民映画を作る活動が始まっている。

上吾川地区「松本軍団」

みんなで楽しいことをやるうちに、楽しい地域になっていった

●松本軍団

・上吾川の中の松本地区という、８部落あるうちの一つ地区
・上吾川は農家の町で、なかなか引っ越しがない地区だが、松本地区は７～８年前から、松山などから、小学校の子どもがいる家族が越してきているところ
・年２回の道削り、井手浚えという、農地の清掃活動の中で同じ年頃の子どもがいる同士、一緒に飲もうかということになり、コミュニケーションが始まった。
・今日着ている赤いＴシャツは、みんな一緒に、何か統一するものがないかということで作ったもの。他にもタオルやネックレスなど、お揃いのグッズがいろいろとある。

上吾川地区「松本軍団」
三塚さん

●活動

・月１回の定例会（飲み会）を実施
・30代、40代の方から60代、70代の方も集まり、会費2000円で料理を作ったりしながら飲み会をしている。人が越してきた時には声をかけて、一緒に飲まないか？と誘っている。
・人それぞれ得意分野があるので、伊予市のソフトボールやレクバレ、駅伝などに参加してもらい、そこでも顔を合わせて、最後はまた飲み会をする。そういう形の飲みにケーションにみんなで集まっている。
・上吾川地区の夏祭りには500名ぐらいが来てくれる。松本地区では餅つき大会をやり、三世代の交流をしている。
・松本地区には若い人がどんどん育ってきて、子ども達もついてきている状況。
・今後の課題は上吾川全体に対して、僕ら世代が何が出来るかである。少子化問題についても上吾川全体でやれることもあるのではないかと思い、上吾川の会議にも出席し、コミュニケーションを図っている。

問題提起「地域のつながり」

職員チームから、地域の課題解決力の現状について問題提起をしました。

市役所の職員だが、地域で皆さんと一緒に暮らしているので、まずは私の身近にある団体を紹介をしたい。

私は伊予市双海町に住んでおり、上灘中学校のサッカー部に入っていた。これは昭和27年に結成された歴史あるサッカー部であり、昭和30年代の後半には県大会で優勝もしている。双海地区には双海中学校サッカー部、上灘サッカー育成会、上灘サッカークラブ、双海サッカークラブ、上灘少年サッカークラブ、伊予市役所サッカー部などがあるが、これらの団体からは数々の素晴らしい方が出ており、この方たちが双海地区、上灘のサッカーを引っ張ってきた。現在は80才近い方から小学生まで、世代に関係なく素晴らしい組織作りをしており、父兄のコミュケーションや子どもの躾けにも役立っている。

このサッカーチームの組織は、サッカーを楽しむだけではなく、地域の世代間の交流やコミュニティの場としても活動している。また他団体と協力して、地域に根ざした活動にも協力している。

現在、少年サッカーからシニアまで活動しているが、10年程前から少しずつ団体のつながりが薄れている。それで始めたのがビーチサッカー大会である。子ども、大人関係なしに、夏祭りの他にも大会を催して、関係団体が協力してビーチサッカーを盛り上げている。

皆さんもいろんな団体に所属したり、関係していると思うので、その経験を踏まえて、今日のワークショップでいろんな意見を出していただけたらと思う。

川本さん、栄口さん

地域の事例をとおして、伊予市のコミュニティの課題解決を考える

［　］はグループ番号

グループごとに３つの事例紹介をヒントにしながら、「事例に関する"気づき"」と、すでに取り組まれている「身のまわりの事例」を出し合いました。

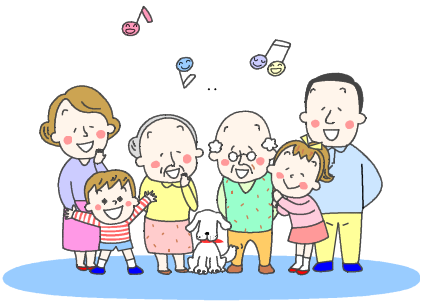
世代間のコミュニケーションに関すること

事例から学んだ〝気づき〟

●交流の場、イベントを企画する
- 団体同士の交流［２］
- 簡単に集まれる場所があれば…（きっかけ）［２］
- "子ども"を通して集まる機会をもつ。［３］
- 多世代型コミュニティサロン［４］
- 定期的な集まり［５］
- 飲みにケーションは必要［３］
- 地域の作業の後に必ず飲み会をやる!!［３］
- お酒［４］
- 飲み会［５］
- 多世代が関われるイベントにする。［３］
- 関心がある事に気軽に参加できる。［３］
- お揃いの物［４］

●積極的に働きかける
- 新しい人に気軽に声かけをする。［３］
- 新しいグループをつくる（既存の組織だけでなく）［３］
- 声かけをする（相談）［３］
- 90才ヒアリング（昔話を聞いたり昔の写真とか）［５］

●大事なこと
- 企画して、それをみんなで考えて行動に移すことが必要。１人で考えているだけではダメ。［３］
- 世代の格差をなくす方法、方策［１］
- 自分たちが楽しむこと［５］



身の回りで知っている事例

●交流の場をつくる
- お年寄りから地域の昔話をしてもらう［５］
- 世代間が対等に話せるような場づくり（雰囲気）［６］
- 三世代交流の場の構築［１］
- ＧＷ、子どもの日に神社ですもう大会がある。親も祖父母も近所の人もみんなが集まった。［２］
- 各世代の居場所づくり（仕事を与える？）［６］
- 飲みにけーしょん［６］
- イベント後、集会所で必ず懇親会（松本軍団）［２］
- 定期的な会合（同窓会）［１］
- 双海人のくるくるはうす。１カ所だけでなく出かける。［６］
- 郡中まち元気サロン　来良夢（こらむ）［６］
- スポーツ行事へは、団地内でも新しく入居した地区にまかせられるようになった。［６］
- 同じスポーツ（行動）をする。引っ張ってくれるリーダーの存在（松本軍団）［２］
- 週一回、集会所で移動図書館［１］
- お店の駐車場を利用したフリーマーケット［１］
- 田植え［４］
- 昔ながらのコミュニケーション［４］

●参加してもらうためには…
- すごく楽しそうに活動する→私もやってみたいと思わせる［５］
- しつこく誘う。何回も！［５］
- お互いを十分理解し、相手目線を常に心がけること。［６］
- 埋もれている各団体を拾い上げる。［１］

●事例から知ったこと
- 組織づくり（部会）がしっかりしている。［６］
- 若い人たちの力が高齢化した地域を後押ししている事例が発表された。［６］
- 住民自治組織に町内の若いグループ（バレーボールチーム）をまるごと取り組んだ運営は良かったと思う。［６］
- シンボルを作り（赤いＴシャツ）一体感をつくる。［６］
- サッカー指導、子どもチームの育成が長年にわたり続けられた事。指導者の継続する意欲の高さを感じた。［６］

新旧住民のコミュニケーションに関すること	
事例から学んだ〝気づき〟	**身の回りで知っている事例**
●交流の場、イベントを企画する ・団体同士の交流［２］ ・簡単に集まれる場所があれば…（きっかけ）［２］ ・多世代が関われるイベントにする。［３］ ・関心がある事に気軽に参加できる。［３］ ・出番づくり→脇役から主役へ［５］ ・お祭りに参加しては？［５］ ・子ども達と一緒に参加する機会（保護者も出てくる）［５］ ・"子ども"を通して集まる機会をもつ。［３］ ・新しい住民の受け入れ［１］ ・イベントに誘う→飲み会にも誘う→飲みにけーしょん［６］ ・地域の作業の後に必ず飲み会をやる!!［３］ ・飲みにケーションは必要［３］ ・お酒［４］ ・飲み会［５］ ・お揃いの物［４］ **●積極的に働きかける** ・若い人への声かけが大切［１］ ・地域の人からの声かけ（飲み会の実施）［１］ ・声かけをする（相談）［３］ ・新しい人に気軽に声かけをする。［３］ ・新しいグループをつくる（既存の組織だけでなく）［３］ ・暮らし、感覚のギャップをうめる移住サポート［４］ ・新しく移住した人は組入りしてほしい。［５］ ・小さな活動からつながりを作り出した。［６］ ・移住者の受け入れ体制［６］ ・上吾川の松本地区に若い家族が増えた環境がすばらしい。地域性があると思う。［６］ ・外部の意見を取り入れる。［６］	**●交流の場をつくる** ・イベントを行う。［１］ ・アパートの大家さん主催で、住人みんなでバーベキュー［１］ ・同じスポーツ（行動）をする。引っ張ってくれるリーダーの存在（松本軍団）［２］ ・イベント後、集会所で必ず懇親会（松本軍団）［２］ ・昔ながらのコミュニケーション［４］ ・料理教室を開催する。［５］ ・ビデオで記録、それをサカナにして呑む！［５］ ・郡中いっぷく亭。お嫁さん、もともとは伊予市の住人ではないけど、その人たちの居場所［６］

＜１グループの発表から＞

・昔、重信町の集会所まで図書館が移動式で来てくれたり、お店の駐車場を利用したフリーマーケットがあった。そういうところから世代間のコミュニケーションが生まれてくるのではないか。
・イベントをすると多くの人が集まり、いろんな世代の交流が生まれる。そこで地域のイベントの告知をすれば認知されていくと思う。
・お祭りにおじいちゃんとお孫さんを連れて来れば、おじいちゃんがお孫さんにどんどん物を買うので、地域経済の活性化にもつながる。
・アパートの大家さん主催の住民のバーベキューの話が出た。「隣に誰が住んでいるのか分からない」と昨今、言われているが、そこからコミュニケーションが生まれてくるのではないかと思う。
・コミュニケーションが大事だが、リーダーシップをもってやる人がいないと、なかなか難しい。
・地域で集まれる場所がない地区もあるので、その辺は課題である。

高齢者・子育ての支援に関すること	
事例から学んだ〝気づき〟	**身の回りで知っている事例**
●交流の場をつくる ・児童クラブの子ども達と高齢者とのふれ合いが欲しい。［１］ ・三世代のコミュニケーション［１］ ・高齢者と子育て世代との交流［２］ ・奥さん同士のつながりの場（ママコミュ）［５］ ・子どもに教育の場。高齢者に活躍の場。まちづくり学校［６］ ・地域サロン［６］ ・市内で開いているサロンを共有できるよう、発信方法を考えてみよう。［６］ ・子ども達が自由に遊ぶ広場があれば良い。［５］ ・空き地でもいい。［５］ **●その他** ・自分の地区の仕事→他地区にも広げる。［３］ ・組織づくり（部会）がしっかりしている。［６］	**●他の事例から** ・花を子どもが配る。［２］ ・イベントでの高齢者の参加［４］ ・ふるさと交流会（高齢者学級）［４］ ・子どもの日の取組［４］ ・駅伝（高齢の人も練習）［４］ ・見守り隊［４］ ・どろんこサッカー［４］ **●子どもを地域で育てる** ・自分の失敗談を子どもに経験させる。［５］ ・気軽に声かけできる環境を。［５］ ・各世代の遊びを教えてあげる。［５］ **●高齢者支援** ・配食サービス。特産品を使って。［５］ ・高齢者で買い物が困難な人への買い物支援［６］ ・足のないお年寄りへの福祉バスの提供［６］ ・一人暮らしや高齢者宅の家屋の修繕（軽微な修繕）やバリアフリー化への支援をグループで。 ・地区にある老人クラブの会で支援（安心、安全、生活など）情報交換の場をつくっている。［６］

＜２グループ発表から＞

・世代間及び新旧住民のコミュニケーションに関することは共通することだと思う。
・イベントに住民の方に参加してもらい、同じようなスポーツや行動を取る。またイベントの後には必ずというわけではないが、懇親会などを開いて皆さんが集まるような機会を設ける。
・お子さんがお父さんと一緒に懇親会に行っている間に、お母さん方は掃除や家事をする時間を作ることが出来るのではないかという意見も出た。
・高齢者、子育て支援に関することとして、高齢者に対して子どもが花を配ったりすることによって、近くに住んでいる子どもの顔を高齢者の方も把握するような体制が整うのではないかという意見があった。
・第１回市民ワークショップでもあったように、高齢者の方が住んでいる場所が、地元で把握出来ていないことがある。そういう高齢者のマップを地元で作れたら良いのではないかという意見もあった。

＜３グループの発表から＞

・多世代が関われるイベントを計画して、多くの人に参加してもらう。強制ではなく、気軽に参加出来る体制を作ることが大事ではないか。
・飲む機会、飲みにケーションは、やはり地域の作業後やイベントの後に行い、そこの場でいろんな世代の人の話を聞く。そこからコミュニケーションが広がっていくのではないか。
・新しい人に声かけをしたり、何かイベントをする時に昔から住んでいる人に相談をかける、子どもを通じていろんな人に参加してもらえるような場を作ることも大事ではないか。
・自分達がやっている活動を他地域にも広げたら良いのではないか。
・活動資金は基本的には参加者が自費でイベントを行うが、区費や会費、古紙回収の補助金等を活動資金にする。
・中山や双海のような大きな活動に持って行くべきか、地域の活動でとどめておくべきか、今後、考えて行く必要があるのではないか。
・それぞれの地域の活動を伊予市に発信する場所、知れる場所があれば良い。

地域経済を元気にする提案に関すること	
事例から学んだ”気づき”	**身の回りで知っている事例**
●既存の仕組みを利用する ・広報区からの助成金 ・区費、会費、参加費（自費）［３］ ・古紙回収して業者に（団体登録）［３］ ・古紙回収［４］ ・軽トラ市（双海が愛媛で最初）［４］ **●情報発信が大切** ・都市部や人の集まるところでのＰＲが大事。うまく告知しなければ人は来ない。［１］ ・情報発信（ＳＮＳ、インターネット等）［５］ **●地元への愛着** ・地元への愛着と何とかしなければという気持ち［１］ ・オリジナルグッズつくり（Ｔシャツとか）［５］ ・地域の避けられているものをプラスの方向に転換［６］ **●その他** ・特産品の開発［６］ ・新しい事業の検討→実施。カフェ［６］ ・企画を協力して継続していく。［２］ ・自分たちでできることを考える［３］ ・料理をつくる（飲み会）［３］ ・様々な年代、立場の人を集めて意見を共有する。議論する。［６］ ・立ち上げる力がある人（リーダーシップがとれる人）が必要［１］	**●他の事例から** ・佐礼谷自治（経済活動の一つになるように…）［２］ ・グッズ製作（販売）［４］ ・葉っぱビジネス。徳島県上勝町［６］ ・地域資源の発掘。四国西予ジオパーク［６］ **●町の資源を活用する** ・個人経営のお店を大切に。［５］ ・学校給食に地元飲食店に地域の農産品を納品してもらう。［５］ ・町家（ＪＲ伊予市駅前）で特産品を多く扱っており、イベントもある。［６］ ・イベントを組む事で特産物（品）の出店。加工品の出店によって地域が元気になり、活性化が生まれる。［６］ ・廃品回収（リサイクル）で収入を得て活動費に。［６］ ・小さな集まりでも良いので、飲み会や趣味の会等を持ち、コミュニケーションを図る事によって地域が動く。［６］ ・住民が地域の良さを理解することが必要［６］

＜４グループ発表から＞

・お酒でのコミュニケーションがすごく大事だが、車でしか来られない人が多い双海人では難しいという話が出た。
・高齢者が参加できるふるさと交流会を行い、子どもと高齢者の交流が行えたら、高齢者がイベントに参加してくれるのではないか。
・松本地区では、高齢者からも「駅伝に参加したい」と言われて練習をしたそうで、それは高齢者の人たちも元気になれる活動だなと思った。またどろんこサッカーは主に子どもが中心になって行うが、それを見守る大人がいるので支援につながっているのではないかと思った。
・双海で行われている軽トラ市は、双海では買い物が出来るところが少ないので、買い物もできて集いの場にもなっているそうだ。
・耕作放棄地の問題では、近所に迷惑をかけないために稲作をする状況が今、あり、今後の課題である。また今は双海人に高校生が参加しているが、連れてきてくれていた先生がいなくなるので、引き続き高校生や若い人が参加するためにはどうしたらいいのかという課題がある。
・田植えはいろんな人の協力によって出来、昔ながらのコミュニケーションがあって、それが必要だから田植えが成り立っている。もう少し田植えというものを見直していったらいいのではないか。

その他の課題に関すること	
事例から学んだ"気づき"	**身の回りで知っている事例**
●多くの人が参加できる場づくり ・賃貸住まいの人は地域コミュニティに参加しづらい。［１］ ・自主性［４］ ・男女比［４］ ・参加者（高校生）［４］ ・自由に意見が出し合える場づくり［６］ ・みんなの参加できる出番づくり［６］ **●地域ごとに課題がある** ・同じ伊予市内でも郡中地区とその他の地区、それぞれで課題が違う。［１］ ・上吾川の松本軍団が出来てから、地域への参画、支援ができている。自主的な流れは◎［６］ ・継続性が大切。そして全体へ広げていく。［６］ ・地域の高齢者マップ［２］ ・小さなことでもできることから実行していくこと。［６］ **●情報発信** ・活動を地域の外にも広げるか、身近なところ、内だけにとどめるか。［３］ ・地域の活動を知る機会をつくる（知らせる）。［３］ ・移住！人口減少対策として。［６］	・各種団体との交流［１］ ・強制でない参加［４］ ・耕作放棄地［４］ ・様々な立場の人が話し合える場所づくり［６］

＜５グループの発表から＞

・食を通じたコミュニケーションと子育てを通したコミュニケーションという話が多く出た。
・飲み会が非常に大事。新しく移住した人も一緒に飲み会を楽しくやっていく。自分たちの活動を記録したビデオを肴に飲んだり、飲み会の参加費をプールして、それでできることを探したり、食べ物を持ち寄り、コミュニケーションをとると良いという意見も出た。
・料理教室を開催し、食材を地元の農家から仕入れれば、地域経済の貢献にもなる。また主婦の力や地域の団体の力も十分に活かせる。
・自分の失敗談を子どもに刷り込むのではなく、同じ失敗を経験させることで、子どもたち自身が学ぶ場を作ることが大事ではないか。
・これらの取り組みを継続的、かつ効果的に行っていくためには、自分たちが楽しむこと。それを見て参加してもらうことが大事だし、しつこく誘うことも大事である。人々が集まれば、お年寄りから知恵をいただく場も自然にできていくのではないか。

＜６グループの発表から＞

・３事例とも、組織としてうまく機能している。
・自分たちの地域を好きになることがすごく大事という"気づき"があった。
・それぞれ地域住民の立場、状態があるので、お互いの立場や状況を理解し、常におおらかな気持ちで話を聞く、いろんな行事に声をかけて参加していただく、その上でコミュニケーションを図ることが大事なのではないか。
・郡中のいっぷく亭では、伊予市に嫁いで来たお嫁さんが集まれる場所を提供している。
・山間部の高齢者のために買い物支援をしてはどうか。伊予市でもバスの運行をしているが、交通の施策も大事である。また高齢者の方の話を聞く場の提供も大事である。
・地域の新しい魅力を再発見し、使えるものは使い、新しく付加価値を付ける、そこに着目してビジネスにつなげたい。
・特産品を販売するルートを確立する。
・様々な立場の方が伊予市の未来について話し合う場所を作っていくことが大事。

感想カード

最後に、今日参加した感想などを、自由に感想カードに書いていただきました。

今後の活動に活かしたい

○地区からの活動事例発表から、良い点に多く気付いた事が良かった。住民組織から世代間コミュニティ活動へ発展、新しい土地を菜の花畑に発展させ、イベントへつないだ。他の地域も若い人々のグループから地域自治会へ参加する姿勢を感じ、若い人への期待が。高齢者への支援を後押しして欲しいと思います。

○他の地域の取組を聞くことができて良かった。今日のワークショップの成果を行政としてどのように活かしていくのか、注視したいと思う。市民を集めるだけでなく、もっと現場に足を運んでほしい。

○地域の活動の活力は「飲み会」です。自分自身が一番楽しむことが大事だと思います。地域の人々が助け合いをするには、コミュニケーションが大事ですが、大きくなれば大きな組織になります。今日、大変参考になることもありましたので、できることは実行していけたらと思います。

○３つの地区の事例の中では「やろう」と言い出す人、それに協力する人たちの関係がしっかりあるんだなと思いました。それぞれの地区で課題や解決に向けてのアプローチは違うと思うので、このような場で得た他地区の取組等を自分の地区に持ち帰って、話し合う機会も必要だと思いました。

○事例発表を聞いて、地域のために０から始められ、困難にぶつかりながらも一体となって力をあせて進められておられる事に感動した。コミュニケーションをとるため、いろいろと工夫が必要。良い勉強になりました。

○いろいろな良い意見があり、取り組んでいこうと思います。お酒なり懇親会も必要だと思い、考えていきたいと思いました。三世代交流の為に！初めての方と話せる機会もあり、楽しかったです。

○３つの地区の事例を発表された方、みなさんが自信を持って発表する姿がとても印象的でした。最初はこの事例を自分の地域に発展させていくのは難しいなと考えていましたが、難しく考えるのではなく、コミュニケーションを大事にすること、それだけで地域活性になると気付きました。このＧＷにすもう大会があったのですが、大会で終えるだけでなく「ちょっとお茶、お茶菓子を出すだけで会話が広がる」と意見をもらいました。来年に向けて地域で話し合ってみたいです。

○他地域の団体の方々と意見交換できて、とても勉強になりました。環境が違うので条件は違いますが、地域を盛り上げ、楽しく暮らしたいと思う気持ちは同じ。それぞれの地域に合ったスタイルを模索していきたいと思いました。

○伊予市の中でも地域によって目指す活動に違いがあり、だからこそ出てくる意見が全て参考になるものだったと思いました。コミュニティでやれる事は知れていますが、やれる範囲でまずはやってみる！ダメだったら別のことをやってみる！これの繰り返しだと考えます。正解は無限にあると思います。

○伊予市にはこんなに素晴らしい組織があるんだなあと思いました。人と人とのつながりをどっから生み出せば良いかという課題が見つかった気がしました。身近なところで出来るところから始める、先ず人を好きになり、人が集まり、その中で無理のない地域の輪を広げていこうと思います。事例は本当に参考になりました。

○他の事例を拝聴し、色々な気付きに学び、再発見をいただきました。「自分たちが楽しむこと」移住対策等、今、取り組んでいる活動に上手く取り入れ、一人でも多くの人たちが参画でき、やって良かったと思えるような取組に進めていきたいと思います。ありがとうございました。

勉強になった

○地域で活動している型は違うけれども、どの団体も地域課題を解決するために、小さなことから始めていた。また初めて顔を合わせた班メンバーだったが、１人１人が地域のことを考え、活動している方達で、楽しいＷＳができました。

○地域によって熱心に高齢者も若者も一緒になってコミュニケーションをとって進めている所もあり感心しました。やはり立ち上げる人がいる所は皆さんがついていっている気がしました。

○地域によって様々な活動があることを知りました。地域コミュニケーション、高齢化、子育てと問題点は多くありますが、自分の出来る事から取り組んでいきたいと思いました。ありがとうございました。

○色々な所で大小様々な形での地域活性の活動をやっていることを知れて良かった。このような活動をやる地域がもっと増え、その中でもつながりを持ち相互交流し、活動の活性化ができればよいと思う。

○３つの事例を通じて、飲みが中心ではあるけれど、定期的な集まりが必要であること、面白くやってもいいし単に集まることもあるけれど、どんどん参加することが必要であること、リーダーシップも必要だし、しつこく誘うことも必要と、必要だらけではあるけれど、まずは参加する人が楽しんでやることが一番大事だという気付きがありました。飲みが苦手な人がいるなら料理教室を通じて集まるとか、清掃の教室なんてのもあるといいかなと思いました。楽しい時間が過ごせました。

○前から考えていたことですが、高齢者と子どもを結びつける手法として何があるのか？「子どもに花を配ってもらうこと」を米湊で行っているということがあった。自分１人では思いつかないことも、コミュニケーションによりいいアイデアが浮かぶ。リーダーも必要（行動を起こすには）。団体行動（スポーツ他）を通じてのコミュニケーションが効果的。継続していくには経済活動も１つという視点も。

○初めて参加させてもらいました。松本軍団の活動は知らなかったのでとても興味深かったです。もっともっとこういう活動を知りたいと思いました。ワークショップで意見を出すのがむずかしかったです。

○各団体の活動内容を知る事ができ、大変良かった。市内各団体の活動内容等を発信する場所や手段があれば良い。地域に合った活動が必要だと感じた。

○皆が「自分のコミュニティはどうだ！」と次から次へと意見が出てくるのを見ていると、皆の伊予市愛が伝わってきました。こういったワークショップは自分達のコミュニティの魅力を出す他に、再確認できる場であると思います. 僕も自分の周りの生活を再確認する良い機会となりました。今はまだ学生という立場ですが、一住民として地域活動の軸となる日がとても楽しみです。本日はありがとうございました。

○今回、はじめて学生以外の人とのワークショップに参加しました。みなさんが伊予市内でどんな活動を行っていて、どんなことを考えているのか聞けて、とても勉強になりました。特に今回聞いた取組の中で印象的であったのは、それぞれの団体がそれぞれの地域の課題にあわせて活動されている点です。また移住者への取組の話で、なぜ都会から人がやってくるかずっと疑問に思っていて、今回、少しだけその疑問の答えが見えはじめました。

事例発表が３つ、職員から１つあったが、地域に活動を発表できるものがある伊予市はすごいなと思った。また、これ以外の地域にも、いろんな活動を活発にやっている方がいるのではないか。それをどう掘り起こしていくのかはもう一つの課題になるかもしれない。

それぞれ違う状況、背景があって、それぞれの活動の形ができていると思う。３つの事例で共通していたのは、今までの既存の組織、自治会、町内会、区という単位ではない別の組織やネットワークができていて、三者三様で形は違うが、地域の中の課題をいろんなアプローチの仕方で解決しようとしているところだと感じた。今までの組織だけではカバーできない隙間をどうつないでいくのか、そこから私たちは何を学ぶのか。今日の意見をどう活かしていくのかを、私たちも勉強させてもらいたいと思う。

愛媛大学
佐藤亮子先生

コミュニケーションの場が必要では

○今回のワークショップでは、行政や住民活動に積極的に取り組んでいる方、地域おこし協力隊など、まちづくりの最前線で活動されている方々のお話を伺うことができました。このワークショップのような、様々な立場の人が集まる機会がより増えることで、まちづくりに対する議論がより活発になると思いました。

○伊予市の各地域それぞれに課題があり、問題意識をもっている方が多いのを感じました。意識はあるのだが集まる場所がない、仲間が見つからない、人がやってくれるであろう、との思いの人が多いと感じました。どんな集まりでも良いので、人と人とのコミュニケーションを図る事が今後につながると思います。

○いろいろな地域のコミュニティ活動について知る事ができた。これからも各地域のコミュニティについて意見交換できる場ができればいいと思った。

○伊予市のことをより良くしようと考えている人が多くいることに感心しました。仕事としてではなく、活動しがいのあるグループがあることはいいことだと思うので、いいところはどんどん共有していけたらいいと思いました。

地域を好きになる事が大切

○発表のあった３事例は、三者三様、それぞれその地域の特性にあった活動をしていることが分かり、おもしろかった。共通していたのは組織づくり（役割分担）がしっかりしている、若い力が元気がある、とにかく楽しくそして自分の地域が好きであること。地域の魅力を高めていけるのもその地域が好きだからこそであるので、まずは自分の地域を知り、問題点を知り考え、そして好きになることから始めよう。

○地域を好きになる、地域を愛する気持ちがまず大事である事を実感しました。世代間のコミュニケーションも、愛があれば垣根を乗り越えることができるような気がします。

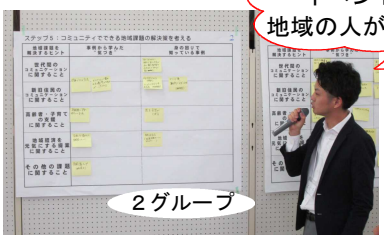
○今回、３つの地区の事例を聞き、共通していることは地元が好きである！地元を何とかしたいという情熱があることだなと思いました。また参加者全員がフラットな関係であり、来る者は拒まないという立場であることが共通しており、イベントや地域づくりの大きなヒントではないかなと思いました。これらの発見が今後の仕事の参考となり、実りのあるワークショップとなりました。

○地域コミュニティを形成していく中で、自分達の地域を好きになることから初めていくことが大切であると思いました。自分の地域を好きになることにより気付くことがあるので、どうすれば良くなるのか、活性化させるために新しく始めるだけでなく、今あるものを友好的に活用できないかなどという考えが出てくると思います。コミュニケーション＝のみにケーションである。

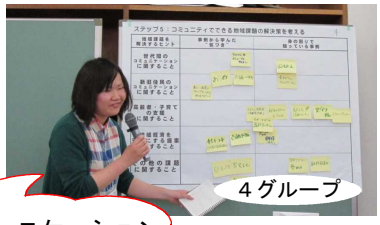
地域で、リーダーシップをとれる人が必要

１グループ

イベントや懇親会など、地域の人が集まれる場を作る。



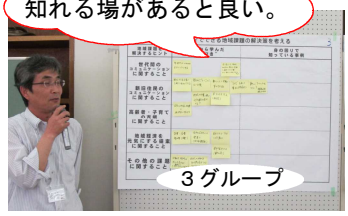
２グループ



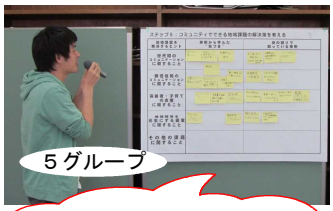
４グループ

昔ながらのコミュニケーションである田植えを見直したら良い。

地域の活動を発信し、知れる場があると良い。



３グループ



５グループ

食や子育てを通したコミュニケーションが大事

３つの団体の良いところをたくさん見つけた。

６グループ